

China Indicators

定例経済指標レポート

中国 消費者物価指数（2009年5月） ～物価の下落が続く～

発表日：2009年6月10日（水）

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 董 氷（とう ひょう、03-5221-4527）

5月の消費者物価指数（CPI）は前年比▲1.4%と4月（同▲1.5%）からマイナス幅が縮小した。非食品価格は同▲1.7%（4月同▲1.5%）とマイナス幅が拡大した一方、食品価格は同▲0.6%（4月同▲1.3%）とマイナス幅が縮小した。

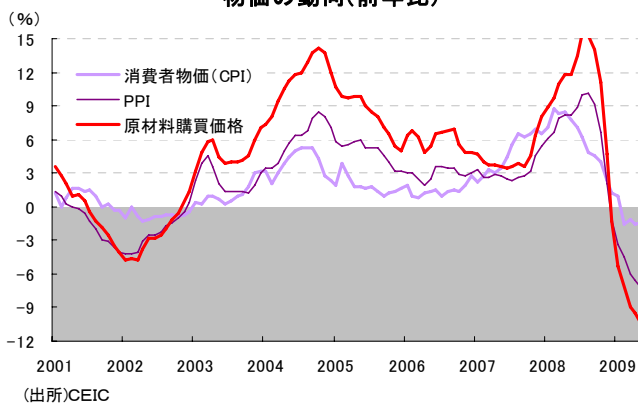
食品価格の内訳をみると、生鮮野菜や穀物、生鮮卵、生鮮果物は上昇したのに対して、食用油は同▲23.1%（4月同▲24.3%）と下落が続いており、昨年のインフレの主因であった豚肉も前年比▲32.0%（4月同▲28.6%）と大きくマイナス寄与した。昨年の豚肉価格高騰のベース効果と、新型インフルエンザの流行を受けて、国内で豚肉が敬遠されたことが背景にあるとみられる。牛肉、ラム肉の小売価格が昨年からはほぼ横ばいで推移している一方、豚肉の小売価格がすでに昨年から大幅に下落してきた要因は、政府の指示により供給を一気に増やした結果でもある。商務部によると、6月5日週の全国豚肉卸売価格は14.01元/キログラムと先週の14.03元/キログラムから下落が続いたものの、下落幅は縮小した。

一方、住居は同▲4.8%と4月（同▲4.0%）に続き下落幅が拡大した。住宅ローン金利の引き下げや、住宅購入の優遇措置によって、帰属家賃は昨年12月からマイナス二桁の下落が続いたことが大きく寄与したと考えられる。エネルギー・食品を除く消費者物価（コア）は明らかになっていないが、4月まで5ヶ月連続のマイナスが続いたため、今後の動きは注意していく必要がある。

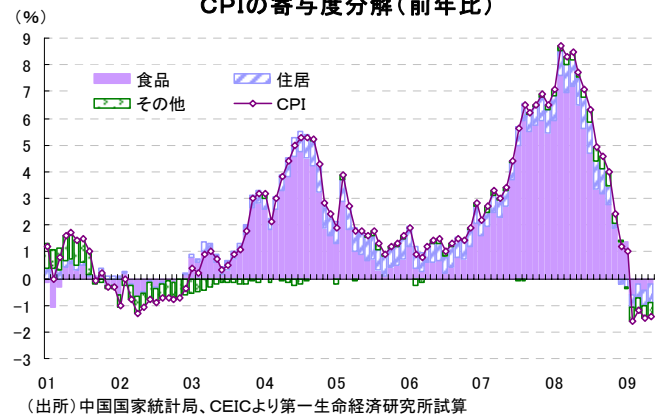
同時に発表された生産者物価は前年比▲7.2%（4月同▲6.6%）となったほか、同様の動きをする原材料購買価格も同▲10.4%（4月同▲9.6%）とともに、前月に続き下げ幅が拡大したが、統計局は鉱工業製品の過剰在庫が背景にあるとした。足元の生産者物価の下落が加速したことから、今年も消費者物価を一段と押し下げ、デフレ圧力が継続するとみられる。

先行きについて、当面はデフレ色が強まる見通しであるが、年後半にかけて、原油のマイナス寄与の縮小や景気の持ち直しにより、消費者物価はプラスに転じると見込まれ、物価下落の長期化は避けられると思われる。

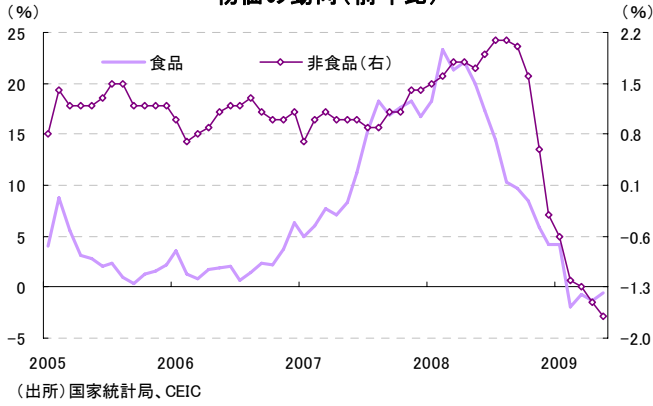
物価の動向(前年比)



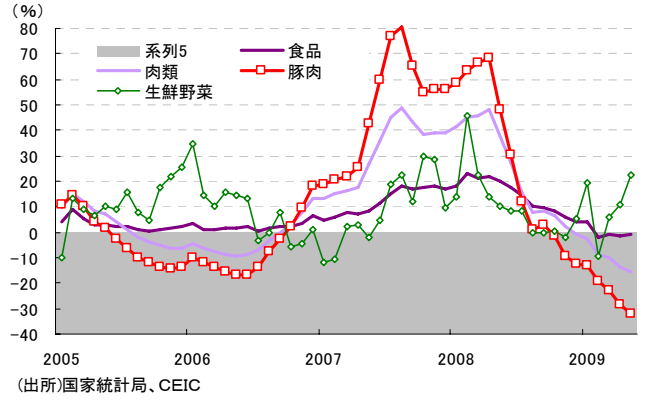
CPIの寄与度分解(前年比)



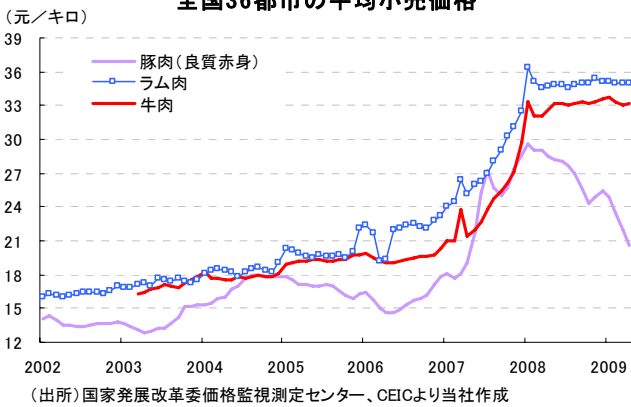
物価の動向(前年比)



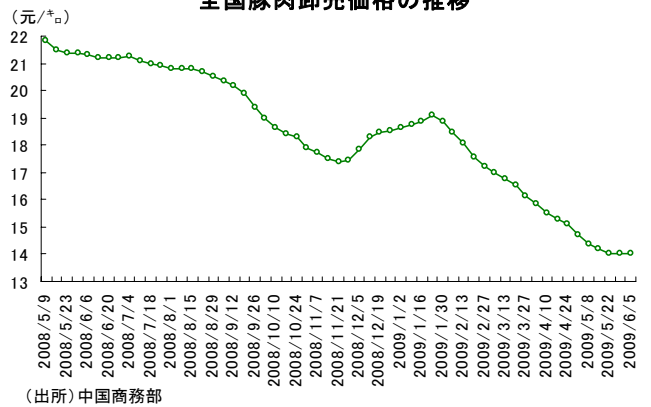
食品の動向(前年比)



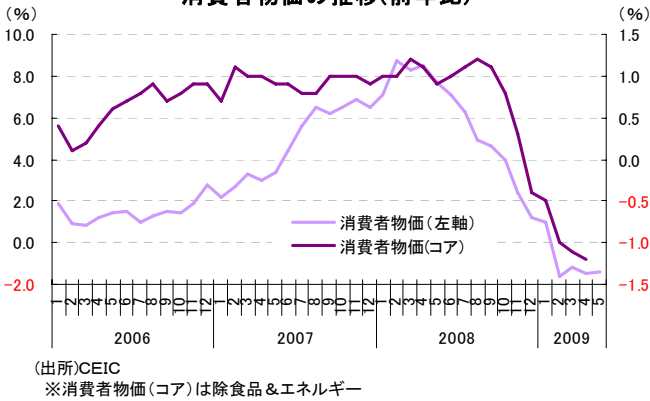
全国36都市の平均小売価格



全国豚肉卸売価格の推移



消費者物価の推移(前年比)



住居価格の推移(前年比)

